

環境省中部地方環境事務所 御中

E S Dユネスコ世界会議報告会 in あいち・なごや
～地域で支えるE S D～開催報告書

2015 年 3 月 27 日

株式会社フルハシ環境総合研究所

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 1-14-18

A-PLACE 金山 6F

TEL : 052-324-5351 FAX : 052-324-5352 www.fuluhashi.jp

目次

1. 概要	P2
2. 講師および話題提供者	P3
3. 参加者	P4
4. 講演内容および話題提供内容	P5
5. グループディスカッション	P9
6. アンケート結果	P18
参考資料	P20

ESD ユネスコ世界会議報告会 in あいち・なごや ～地域が支える ESD～開催報告書

1. 概要

(1) 日 時：平成 27 年 3 月 6 日（金）14:00～16:30

(2) 場 所：ウィルあいち 1F セミナールーム 1, 2

(3) 主 催：環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス

(4) 後 援：ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会

(5) スケジュール

14:00～14:10 開会・趣旨説明

14:10～Report:ESD ユネスコ世界会議の成果

①ESD に関するユネスコ世界会議について

講師：認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議 (ESD-J)

代表理事 重 政子氏

②開催地域の取組

講師：ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会

事務局次長 橋本 博巳氏

③質疑応答

14:55～Discussion:「ユースはどうあるか・拠点はどう活用するのか」

①話題提供

□「ユース」

提供者：一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)

事務局長 辰野 まどか氏

□「地域の拠点（環境学習施設・公民館、学校等）」

提供者：名古屋市環境局環境企画課 主事 尾上 圭氏

②質疑応答

③グループディスカッション

④まとめ

「ユース」グループの内 2 チームおよび「地域の拠点グループの内 2 チーム

16:30 閉会

2. 講師および話題提供者（敬称略）

（1）講師

氏名	所属	役職
重 政子	認定NPO法人 「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)	代表理事
橋本 博巳	ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会	事務局次長
辰野 まどか	一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)	専務理事 兼 事務局長
尾上 圭	名古屋市環境局環境企画課 (ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会)	主事

（2）話題提供者およびグループコーディネーター

氏名	所属	役職
松本 謙一	富山大学人間発達科学部	教授
池端 弘久	キゴ山少年自然の家	館長
杉山 範子	名古屋大学 環境学研究科 社会環境学専攻 環境政策論講座	特任准教授
前園 泰徳	福井大学大学院 教育学研究科	福井県ESDコーディネーター 特命准教授
菅原 みわ	東北大学 理学研究科 生物学専攻	

3. 参加者

あいうえお順

氏名	所属	役職
青木 雅夫		県推進員35
秋山 晃一		豊橋ユネスコ協会
五十嵐 雅裕	あま市立甚目寺小学校	校務主任
池村 智津子	松阪ユネスコ協会	理事
伊藤 三洋		
今西 實	春日井市民交流会議	
伊与田 徳松	安城市環境アドバイザー	
植手 和也	名古屋港管理組合	企画調整室環境担当 主査
内田 郁夫	三重県	環境生活部地球温暖化対策課副参事
大槻 憲一	岐阜県環境生活政策課	
大鹿 聖公	愛知教育大学	
大須賀 哲夫	県環境カウンセラー協会	県地球温暖化防止活動推進員
加藤 美奈	オフィスラグーン	
北川 陵太郎	愛知県環境部環境政策課	企画・広報G
巾 賢治		
小林 由紀子	特定非営利活動法人 e-plus生涯学習研究所	代表理事
酒井 清夫	なごや環境サポーター(三環さん、グリーンサークル)	
島田 貴宏	ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会事務局 子ども会議グループ	主査
高橋 美枝子	エコプラットフォーム東海	事務局世話人
竹内 寿徳	公益財団法人中部科学技術センター	総務部 主幹
田邊 正義		南山大学経営学部経営学科3年
寺本 佐利	一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会	
中村 有作	命をつなぐプロジェクト	学生実行委員
成瀬 幸敏	特定非営利活動法人 e-plus生涯学習研究所	
西島 真奈美	株式会社総合環境計画	技術部
西山 小春		中部ESD
長谷川 紀男	三環の会	
羽根田 正之		環境カウンセラー
原 京子	こども財団	
広川 雄三		環境省「3R推進マイスター」
牧 宏	名古屋環境サポーター	
松田 泰暉	(公財)名古屋国際センター交流協力課	
安田 健一	名古屋市環境局環境活動推進課	主事
山田 一雄	中日本高速道路㈱	名古屋支社道路管制センター
山本 武志	愛知県教育委員会	

4. 講演内容および話題提供内容

(1) 開会 挨拶

環境省中部地方環境事務所 環境対策課 課長 遊佐秀憲

「国連 ESD の 10 年」の活動の 10 年目の節目として平成 26 年 11 月に愛知県名古屋市中にて ESD ユネスコ世界会議が開催され、愛知県名古屋宣言が採択された。その中で ESD の取組みの推進・拡大を目指すグローバル・アクション・プログラム（以下、GAP）が採択され、一般の方々の環境への関心が高まり、ライフスタイルを変える機運が高まっている。

ESD の実行は、多様なセクターおよび携わる人々の行動が求められており、同時にそれを育むユースおよび大人の力を育てる場が必要である。今回の報告会は、来年度の事業の形を作り、実行するの必要性を改めて学び、地域でネットワークを築く機会としたい。



(2) 趣旨説明

環境省中部地方環境事務所 環境対策課 企画係長 高木丈子

平成 26 年 11 月に ESD ユネスコ世界会議が開催され、GAP の 5 つの優先行動分野が公表されたが、それをもって 10 年にわたる ESD の取組みが終わることはない。今後の活動につなげていくことが重要と考え、今回、「ユース」「地域の拠点」をテーマに報告会を行う。選定理由としては、「ユース」はこれまでに集まりの場が開催できずにいたこと、「地域の拠点」は学校、公民館などの地域に根差した機関の活用方法、ESD 実践者を育み、ネットワークをつくるために選んだ。

今回は、重様に ESD ユネスコ世界会議の成果や国の動きを、橋本様には実践の場である地元の成果と方向性について報告いただく。



(2) Report:ESD ユネスコ世界会議の成果

①タイトル

ESD に関するユネスコ世界会議について

②講師

認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」
推進会議 (ESD-J)
代表理事 重 政子氏



③ポイント

世界会議での成果を振り返るとともに、現在までの国等の動き、次年度以降の ESD 推進の方向を報告

④資料タイトル

ESD ユネスコ世界会議報告会

⑤内容

ESD に関するユネスコ世界会議では、主要テーマ (ESD を質の高い教育に役立て、持続性という課題へ取り組むためのアジェンダ) について話し合われた。閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合では GAP が採択され、あいち・名古屋宣言が公表、以下の 4 点について要請している。①質の高い教育を義務づける、②わかっていることを教える教育から不確実な分からも教える、③なぜ教えるのかと未来に向けて考える、④10 年間の成果を拡大し、パラダイムシフトを図る。同時に ESD を進めるための 5 つの優先行動分野 (企業の支援、機関包括的アプローチ、教育者、ユース、地域コミュニティ) が公表された。

ESD を、来年 9 月に国連での採択が予定される SDG s の人材育成の柱にとの案が出ており、ESD-J は政府にこの案を削除することのないように働きかけている。

11 月 13 日に開催されたフォローアップ会合では、300 名が集まり、議論した。体験活動に ESD を入れることで ESD を浸透させる、GAP に対応した大学間ネットワークを ESD 的に展開し国際浸透を図る、ノルウェーやドイツなどの先進国だけでなく、アジアの団体とも連携をしていく、マルチステークホルダーで世界遺産を守るために国際理解・環境教育を ESD として展開する、ユネスコスクールで ESD を実践し深める、企業は CSR から ESD に発展する、など多方面の展開が話し合われた。

文部科学省では ESD を展開するために、学術関係者への研修が始まっている。

ESD-J としては、ESD を発展させるためには地域ごとにコンソーシアムが必要で、そのコンソーシアムを支援するためには全国的な協議会が必要であると考えている。また、多様な主体による ESD の実践には情報共有と発信機能の両面が必要である。

(3) Report:ESD ユネスコ世界会議の成果

①タイトル

開催地域の取組

②講師

ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会
事務局次長 橋本博巳 氏

③ポイント

この地域の世界会議の支援について振り返り、会議を通じて育まれた本地域の ESD 活動および今後の方向性について報告

④資料タイトル

ESD ユネスコ世界会議開催地元の取組

⑤内容

ESD への取組は 10 年前からされていたが、名古屋市で開催されるにあたり周知不足であったため普及啓発に力を入れた。期間中は、海外からの来訪者の誘導、医務体制を徹底し、ペットボトル持ち込み禁止のかわりに給水器とリユースカップの設置、ボランティアスタッフの指導を行った。特にボランティアスタッフは TOEIC730 点以上の人を募集し、8 割が女性、5 割が海外駐在経験のある方が活躍した。宗教的な戒律にも気を遣い、エクスカッションにも力を入れ、テレビ等の電飾広告等も行った。特に SKE、さかなクンを起用し認知度を上げる活動を行った。子ども会議のメッセージ発表は新聞でも取り上げられている。

ユネスコスクールの加盟校は増加しており、教員が力を入れているだけでなく、自治体（豊橋市など）も力を入れている。中部大学他の大学機関、トヨタ自動車等の企業、NPO も ESD に取り組んでいる。愛知県では自治体職員のための ESD ハンドブックを作成し、浸透を図っている。

世界会議の成果を受け、行政としては幅広いテーマは取り組みづらい部分もあるが、今後は「環境首都あいち」を担う人づくりおよびユネスコスクールの活動を支援する。



(4) Report:ESD ユネスコ世界会議の成果

①タイトル

子ども会議からのメッセージ

②講師

名古屋大学環境学研究科社会環境学専攻環境政策論講座

特任准教授 杉山範子 氏

③ポイント

子ども会議の映像放映および支援する立場で感じたこと。

④資料タイトル

ESD あいち・なごや子ども会議からのメッセージ

⑤内容

(子ども会議からのメッセージの様子を映像放映)

何度もグループ討議を重ねてこのメッセージを作成した。子どもたちは場所ときっかけを作ればどんどん先に進んでいく力がある、支援する側は子どもたちから出てくるものを大切にし、時には口を挟むことを謹んで受け止めるべき。

子ども会議のメッセージに記載のない小学校 6 年生の男子生徒の意見（22 年前と現在まで何も変わっていないではないかという怒りのメッセージ）は、会議の前に、1992 年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された環境と開発に関する国際連合会議におけるセヴァン・スズキのスピーチを見てアドリブで加えられた。彼は、1992 年と今とで状況が変わっていないことに怒りを感じた、だから子ども会議でメッセージを読み上げる際に絶対に自分の気持ちを伝えたい、と言っていた。私たちは変わらねばならない。



(5) Discussion:「ユースはどうあるか・拠点はどう活用するのか」

①タイトル

ユース

②話題提供者

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト (GiFT)

事務局長 辰野 まどか氏

③ポイント

世界会議におけるユースの取組を振り返り、今後取り組むべき優先課題を提示。

④資料タイトル

なし

⑤内容

11 月の ESD ユネスコ世界会議前、11 月 7 日に 180 カ国 5000 の内、48 カ国 50 名のユースリーダーが岡山に集まった。世界の人口の 50%を 30 歳以下が占めることを考えると、ユース世代が声を発し、想いを行動につなげ、互いに繋がり合う必要を感じている。会では、地域や社会、企業との関わり等のトピックスが多数立案された。そのうち 8 名で国に帰って何ができるのかをユースステートメントとして作成し配布した。ここで 彼らが強く希望したことは、大人たちがユースの支援についてユース



のいない場で話し合うのはやめ、重要なステークホルダーとしてみてほしいということである。

彼らは会議の場でもアクションを起こしており、会議 1 日目の夜にはメディアに発信をし、オーストリアの代表はステートメントを作るだけではなく、今、この場から社会を巻き込み、社会を変えていきたいと、ユネスコに掛け合い急遽イベントを実施した。

ユースリーダーたちはその後もソーシャルサービス等を活用して繋がり合い、ジャマイカでは文部科学省の大臣との対話をラジオで流したり、岡山では ESD コミュニティを作り ESD トレーニングの機会を提供したり、ユネスコカンファレンスではユース大使設立をユネスコに提案している。

イリナ・ボコバ事務局長は「私たちを待たないで」というメッセージを発信している。ユースリーダーたちはそれを受けて、活動を続けている。ユースは世代間の交流・協力と同世代の環を広げ、一緒に未来をつくる気概を持ち続けている。

(6) Discussion: 「ユースはどうあるか・拠点をどう活用するか」

①タイトル

地域の拠点

②話題提供者

名古屋市環境局環境企画課 主事 尾上 圭 氏

③ポイント

名古屋市を中心として ESD 活動推進の役割を担う拠点である「なごや環境大学」および ESD ハンドブックの紹介。地域に ESD を浸透させる工夫について。



④資料タイトル

まちじゅうがキャンパス なごや環境大学 環境首都なごや、そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」・「人の輪づくり」

⑤内容

なごや環境大学の最大の特徴は、知識、経験、問題意識を持ち寄り、ともに育ちあうネットワークの場であるということである。ネットワークづくりにも力を入れており、ホームページやブログ、ソーシャルネットワークも活用し、交流会等も開催している。コアとなる実行委員会は「講座」、「ESD 推進」、「なごやを動かそう!」、「広報」の 4 チームによって作られ、規模は、現在 160 講座、2 万名が受講し、設立当初から講座は 2 倍に、受講者数は 3 倍に増えている。またムーブメントづくりのために独立したプロモーション講座なども開催している。

ESD ユネスコ世界会議では、地域コミュニティの活を考える円卓会議を開催し、学び合うこと、繋がり合うこと、地域とどのように関わるのかを意見交換した。また、世界会議会場内で展示物やイベントを通して交流を図った。

名古屋市の環境活動は、藤前干潟の埋立回避のためのごみ減量活動から始まり、愛知万博、COP10、ESD ユネスコ世界会議を経て、一人ひとりが関心を持ち、環境認識を改め、行動につなげるための支援と担い手づくりにつながっている。名古屋環境大学を活用した ESD 実践のための提案書を作成し、ネットワークやリソースを活用した活動を展開するために、リソースマッチングプレゼン大会が 3 月 7 日開催される。

また環境学習実践者に向けた ESD ガイドブックを作成し、実践のヒントなる情報を掲載している。

5. グループディスカッション

グループディスカッションでは、2015 年以降に具体的に何をすべきかについて話し合う。ユースグループは若者として、あるいは若者と一緒に何がしたいかについて、地域の拠点グループは、拠点を活用して、学校、学術機関、NPO・NGO、教員、行政、企業という地域のステークホルダーと何ができるのか、を考える。

参加者は（１）個人ワークとして、氏名、所属、2015 年以降にしたいことを A4 用紙に記載した後、（２）4～6 名のグループに分かれディスカッションし、2 グループずつ発表、全体共有を行った。

（１）個人ワーク（記載内容）

上から氏名、所属組織、2015 年にやりたいことを記載する。（順不同）

中村有作
命をつなぐプロジェクト
ESD というものがまだよくわかっていないので、知ることから始める。 さらに自分たちの活動を交えて、フリーペーパーを通して発信する。

菅原みわ
東邦大学 大学院
小・中学生に対し、ESD という言葉を使わずに ESD を推進する。 (NPO に所属し、行政と連携していく予定)

田邊正義
南山大学 En-conrage World Plaza
将来 Mission を持った仲間を増やして社会人になる。

杉山範子
名古屋大学 大学院 環境学研究科
・ ESD のプログラム、人づくり、場づくり ・ 子ども会議のメッセージを伝えていく。

高橋三枝子
(NPO) エコプラットフォーム東海
コミュニティセンターで ESD (人権教育)

安藤美香
名古屋市環境局 環境活動推進課
なごや環境学習行動計画（仮称）の策定業務

池端
石川県金沢市 キゴ山少年自然の家
・地域の SD の課題に共に取り組む学校や地域を応援する。 ・ESD を実践する教育機関として充実する。

島田貴宏
ESD 支援実行委員会
いろいろな人が気軽に話し合える場ができれば。

広川雄三
3R 推進マイスター
一般講座をお仰せつかる中で「ESD ベーシック」「ワンポイント ESD」「人間の生存基盤」として食料、エネルギー、気候変動、バーチャルウォーターを断片的に伝える。

松本謙一
富山大学 ①（富山 ESD 講座） ②（北陸 ESD 推進コンソーシアム）
① ESD シンボ 子どもの姿から家庭・社会を巻き込む。 ② ホームページ＋パンフ 団結と拡大を！

尾上 圭
名古屋市環境局
ESD ガイドブックを活用したい。 講義等。 頭に ESD を使うのではなく、ESD を最初から最後まで説明するのではなく、食料、エネルギーのやっтерる中でひとコマ ESD を入れこむ。 →行政の応援：自信を持つこと。

北川陵太郎
愛知県環境政策課
ユース世代といっしょに持続可能な地域を。

辰野まどか
Gift : 一般社団法人 グローバル教育推進 project
Global Citizenship Education Program を世界各地で実践。 ESD Program 開発 w/ユース

田中耕平
環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)
同世代のネットワーク強化

原 京子
こども財団 石巻市子どもセンター
ユースと子どもをつなぐ。 ユース名古屋と被災地をつなぐ

前田泰徳
福井大学
① 幼・小・中・高・大の接続 ② 大学における ESD コアカリキュラム化 ⇒ ユースサポートの育成の活躍の場創 り

大鹿聖公
愛知教育大
ESD を含めて実践力・行動力を持つ教育を養成する。 ESD とは何かを伝える。

今西 實
春日井市 ささえ愛センター市民交流会議
市民活動の中に ESD をどう取り込むか NPO と ESD、マークデザインが重要。

五十嵐雅裕
あま市立甚目寺小学校
2015 年以降もっともっと地域とつながる！ 小（中）学校で子供たちがどう地域とかかわり、つながっていくか考えているので、さらに 発展させる。アイデアをみつける、うみだす。

加藤美奈
企業・一般 プランニングオフィスラグーン
・環境学習 ・ふつうの人へ ESD を伝えたい。

西山
春から社会人
・中部大が行っているような講義として ESD をカリキュラムに加えることを他大学に。

山本
県障害学習課
社会教育で地域コミュニティを活性化するモデルを作る！ ・ユネスコスクール ・公民館 ・学校とシニア世代

青木
自然観察指導員 環境カウンセラー
身近な自然環境を知る。

植手和也
名古屋港管理組合
ものづくり愛知を支える港名古屋港において、どのように過ごしやすい環境を整えるべきか、日々の暮らしをどう考えるべきかを考えたい。

伊藤
四日市大学 エネルギー環境教育研究会
・大学教育で ESD を実践する。 ・ユース支援に NPO 等の参加を企画する。

池村智津子
松阪ユネスコ協会
・子ども一人ひとりにしっかり向き合い、一人ひとりが自分の無限の可能性を信じて自分を発揮しようとするような子育てや教育を広めていきたい。そのことが ESD を広めること、世界平和につながらと思う。今日はありがとうございます。

馬場恭子
EPO 中部スタッフ、中部 ESD 拠点スタッフ
・高校生 ESD コンソーシアムの開催支援 ・なごや環境大学への参加（個人的に）

伊与田
安城市環境アドバイザー
・「ストップ温暖化教室」の推進 ・持続可能な未来社会

山田一雄
中日本高速道路㈱
・生きものが安心して住める自然環境の保全について、皆で学び教え合い行動したい。

成瀬幸敏
NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所
・ぎふ環境大学をつくりたい。 ①ネットワークづくり ②知恵の共有 ③協働 1人ではできない！

来住南
愛知県
・楽しい環境学習。みんなが参加する学習。

内田郁夫
三重県
・環境学習情報センターの講座を ESD の視点から見直したい。何が足りないか。

羽根田正之
瀬戸長根連地区地域力向上委員会、環境カウンセラー協会
・地域力、公民館活動において、大人・子供に ESD を説明、広めたい。

中島萌子
愛知淑徳大学（EPO スタッフ、もうすぐ社会人!!）
・大人の中に入っていきたい。

たけぞう
(公財) 中部科学技術センター
・ 持続可能な社会の実現 こどもたち（次世代）にサイエンスの関心を持ってもらえる様に取り組めます！

安田健一
名古屋市環境局
・ 知識を行動に移せない方に対する動機付け

小林
NPO e-plus 生涯学習研究所
・ 話し合いの方法を伝え、場を作る。

秋山
豊橋ユネスコ
・ 内容 ユース活動として地域振興のリーダーシップをとってもらう。 ・ 手法 ユネスコ協会発行の ESD ボランティアパスポートを活用してのボランティア活動

(2) グループワーク

参加者は「ユース」「地域の拠点」のいずれかのグループに分かれ、上記個人ワークシートを使用して自己紹介した後、グループディスカッションを通して活動内容をまとめた。

<ユース>

グループ① 愛知・名古屋への提言

国際会議で「コーディネーターの必要性」が明言された。コーディネーター育成プログラムのモデルケースを作り、情報を発信し、全国からコーディネーター志望の人が集まるように働きかけたい。

(田邊正義、菅原みわ、中村有作、巾 賢治、杉山範子)

2015.3.6.

愛知・名古屋への提言

✧ 国際会議で「コーディネーターの必要性」が明言された。

→ コーディネーターを採用し、また、学生をコーディネーターとして育成するようなモデルケースを作してほしい。

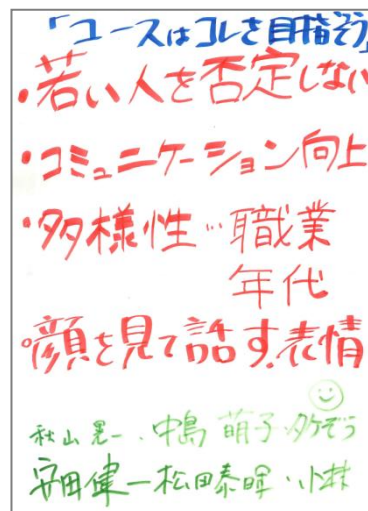
巾 賢治

田邊正義 菅原みわ 中村有作 杉山範子

グループ② ユースはコレを目指そう

若い人を否定しない。コミュニティに飛び込み、コミュニケーションを取ろう。多様性を認め合おう。表情を出していこう（ラインなども普及しているが、文字だけでなく、フェイス・トゥ・フェイスで多様性を身につけよう）。

（秋山晃一、中島萌子、タケぞう、安田健日、松本泰暉、小林）



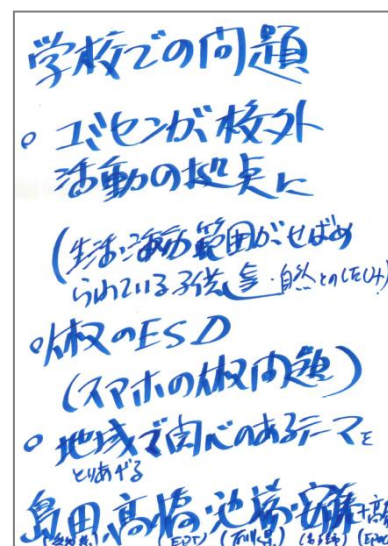
<地域の拠点>

グループ③ 学校での問題

学校とも繋がりながら、公民館などのコミュニティセンターで ESD を展開するために、コミュニティセンターでプログラムを持ち、子どもたちを ESD プログラムに巻き込んでいく。

人権問題や、スマートフォンの使い方、日本の政治問題を議論する場に発展させたい。コミュニティセンターなのだから、地域に必要なことを課題に取り上げ、プログラムを組み立てる。

（島田、高橋、池端、安藤、高島）

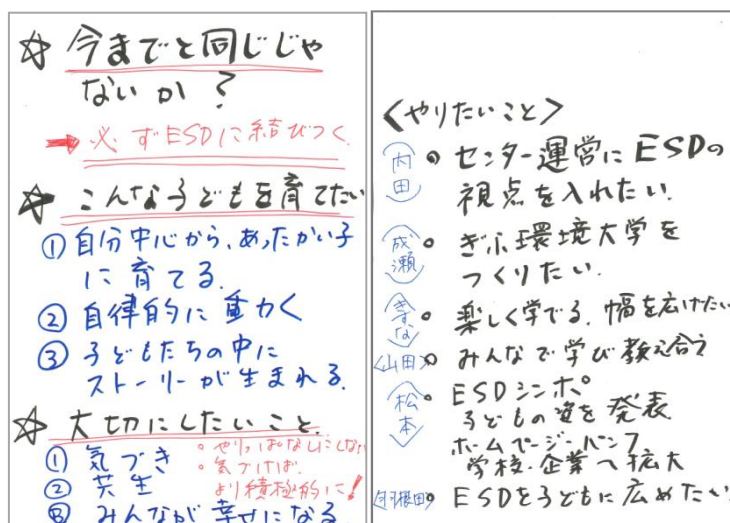


グループ④

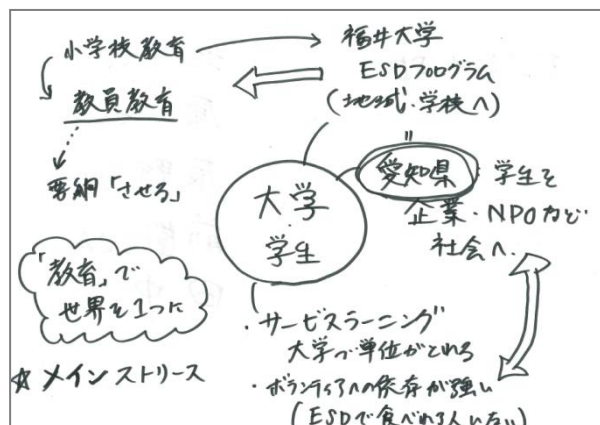
ESD に結びつけやりたいこと

何が大切なのか、子どもに気付きを与え、自分が変わることを教える。環境教育でそこまで踏み込み、ESD に結びつけて教える。

（内田、成瀬、きすな、山田、松本、羽根田）



<未発表グループ>



環境コンタクト 赤井さん

「大人が元気になると 大人が変われば子供が変わる 自分がしたい! やりたい! 子供たちの 学びたいという気持ちに 応える 子供が主体の教育」

四日市大学 エネルギー環境教育

どうやって ESDを促す 知識と行動を高めよう

伊藤さん

高校生ESDコンテストの 開催支援

ESD部 / 中野ESD拠点 馬場

環境教育に ESDの視点を とり入れる

子供(の意見)を 先生と伝える

安城環境アドバイザー 伊与田さん

大鹿さん・五十嵐さん・大須賀さん・今西さん・加藤

- ・みじかなテーマ
- ・ESDという言葉を先に出すか “生きるチカラ”と伝える。

意見・アイデア

の根拠

- 頭からESDをやめる。食料・エネルギー → ワンポイントESD ← 気候変動
- 未来の社会がどうなるか考えよ、とか伝える。
- ESDに対して行政が自信を持つこと。
- ESDハンドブックに県内市町村のESDの取組をまとめる
- 市町村自治体の職員の自分たちの事業が ESDに資する。
- NPO/NGOと大きく連携すること。

ESD-JE 行政 橋本・尾上

<グループディスカッションの様子>



6. アンケート結果

参加者は男性が 81% (25 名)、女性が 19% (6 名) であった。

(右円グラフ : 6.1 男女比の構成)

年齢は、20 代から 70 代以上までバランス良く分かれているが、40 代が 26% (8 名) と最も多く、30 代が 0 名という結果であった。

(右下円グラフ : 6.2 年代の構成)

参加者の所属は、無解答が 35% (11 名) と最多であり、次いで行政関係 23% (7 名)、NPO 関係・教育関係者が 19% (6 名) となっている。

1 名の参加者が教育・NPO の両方に丸をつけており、全体人数は 32 名となっている。

(右下円グラフ : 6.3 所属の構成)

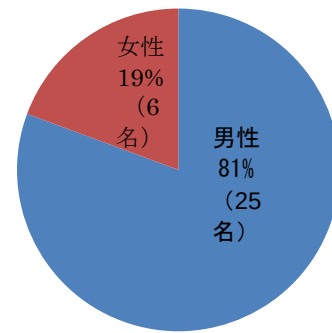
報告会の内容に関する解答では、1. Report ESD ユネスコ世界会議の成果については、①非常に良かった ②良かった ③普通 ④あまり良くなかった ⑤良くなかった、の 5 択で聞いたところ、

「非常に良かった」「良かった」が 74% (23 名) で、理由としては、「ユースや子ども会議のお情報を知ることができた」「分かりやすかった」「ESD を盛り上げるのは自分」「全体の視点で見れた」「大人の行動が必要」等の意見が記載された。また、「あまり良くなかった」「良くなかった」が 6% (2 名) で、理由としては「今日聞いた成果は教育者側の言い分」「時間、内容を短くまとめる」などの意見が記載された。

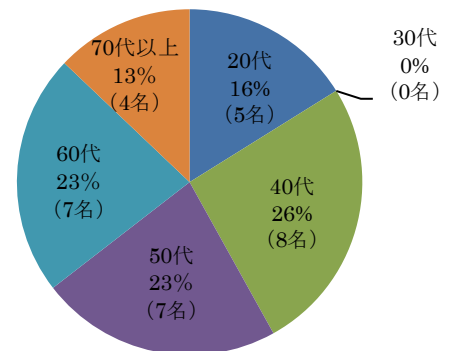
(右下円グラフ : 6.4 Report 結果)

2. Discussion の話題提供については、①非常に良かった ②良かった ③普通 ④あまり良くなかった ⑤良くなかった、の 5 択で聞いたところ、「非常に良かった」「良かった」が 77% (24 名) で、理由としては「議論に入りやすい」「なごや環境大学の活動を参考にしたい」「子ども会議、ユース会議の裏話を聞いた」などの意見が記載された。「あまり良くなかった」「良くなかった」が 3% (1 名) で、理由としては「国内のユースの取組、公民館・学校の取組に関する紹介がない」「コンパクトにまとめてほしい」などの意見が記載された。

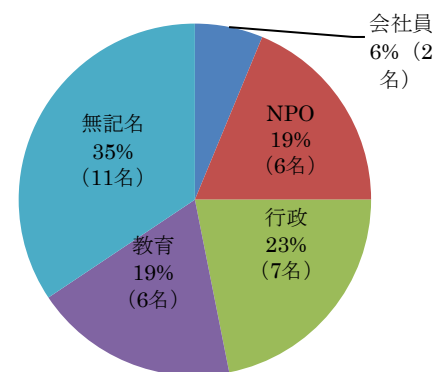
(次ページ円グラフ : 6.5 Discussion 結果)



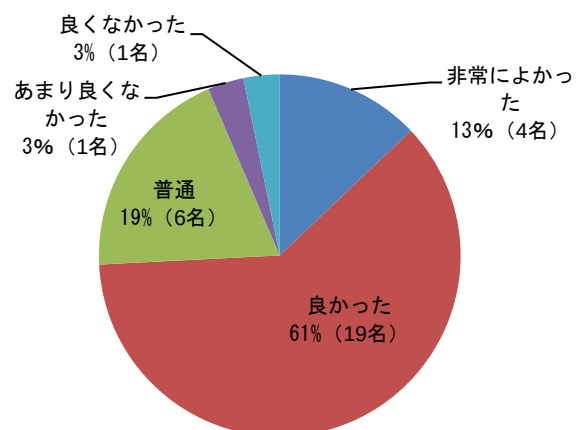
6.1 男女比の構成



6.2 年代の構成



6.3 所属の構成



6.4 Report 結果

グループディスカッションについては、②良かった ③普通 ④あまり良くなかった ⑤良くなかった、の5択で聞いたところ、「非常によかった」「良かった」が74% (23名) で、理由としては「多様な立場の人に出会えた」「有意義な話し合いができた」「こういう場がもっとあると良い」「ESDについて学ぶ環境づくりの解決のための意見が出た」などの意見が記載された。「あまり良くなかった」「良くなかった」が6% (2名) で、理由としては「時間が短い」などの意見が記載された。

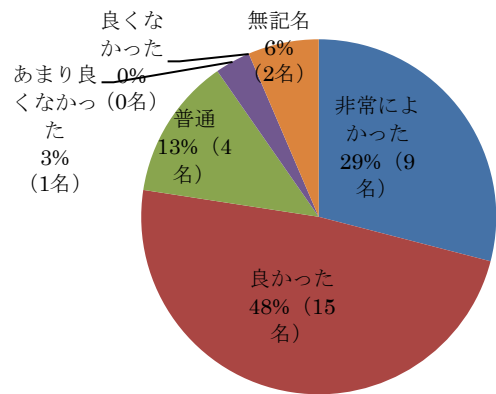
(右下円グラフ：6.6 グループディスカッション結果)

今回の報告会全体についてのご意見、ご感想では、「話題が詰め込みすぎなので時間を絞るか、話題提供者を絞るべき」「時間配分をきちんとするべき」「進行に問題がある」「報告会の終了をESDの終わりにしたくない」などの意見が記載された。

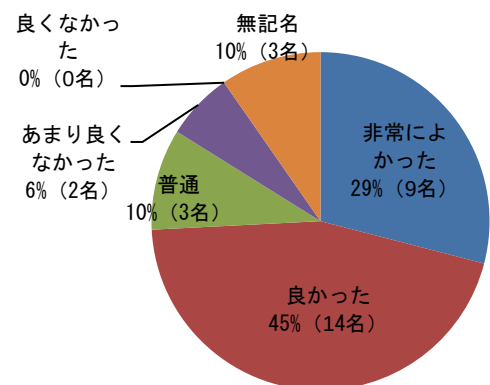
環境教育・ESD施策についてのご意見、ご要望では、「イベントばかりで日常化されていない。一部の人の取り組みに過ぎない」「ESDが目的であり、環境教育・活動は目的を達成するためのツールであることを意識する」「ユースにリーダーシップを取ってもらいたい」「地域の方々が主体となる取り組みが先行するよう工夫が必要」などの意見が記載された。

その他では、肯定的な意見としては、「大学生や高校生のためのディスカッションの時間がほしい」「ユースについて考える場に当事者がもっと増えていけばよい」「ESDの取り組みが自然環境に偏重している。国際理解教育も必要」「今後の教育活動をデザインする上で良い材料が得られた」などの意見が記載された。否定的な意見としては、「時間をもっと長く取る」「全体のタイムキーパーに問題がある」「進行に問題がある」などの意見が記載された。

全体的に満足度は高く、コミュニケーションを取るグループディスカッションの場が良い機会であったとの意見が多かったものの、前半に短い時間で多数の講師による報告の形態とその進行の両面において適切でなかったとの意見が散見される。



6.5 Discussion 結果



6.6 グループディスカッション結果

参考資料

1. 講演資料

- (1) ESD ユネスコ世界会議報告会（重政子氏）
- (2) ESD ユネスコ世界会議開催地元の取組（橋本博巳氏）
- (3) ESD あいち・なごや子ども会議からのメッセージ（杉山範子氏）
- (4) ESD ユネスコ世界会議報告会 in あいち・なごや～地域で創るESD～（辰野まどか氏）
- (5) まちじゅうがキャンパス なごや環境大学 環境首都なごやそして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり」・「人の輪づくり」（尾上圭氏）

2. アンケート結果 （1 部）